



「探究的な学び」のある授業づくりを通して

研究主任 森山浩二郎

私たち教員は、授業を通して子供たちの資質・能力の育成を図っています。また、授業の中でどのような児童生徒像を育成していくかについては、文科省が示す学習指導要領を基に各校の特色を生かしながら決定していきます。本校では、育成する児童生徒像を「自律した学習者」とし、その具体的な姿としての研究主題を「自分なりの問いをもち、学び続けられる児童生徒の育成」と設定しています。

令和5年度 泰日協会学校（バンコク日本人学校）研究主題

自分なりの問いをもち、 学び続けられる児童生徒の育成Ⅲ

～「**探究的な学び**」のある授業づくりを通して～

【探究的な学びの質を高める3つの視点】

- 視点1 『探究的な学び』を促進する情報活用能力の育成
(各教科・領域の授業における**情報活用能力の育成**や**ICTの効果的な活用**)
- 視点2 『探究的な学び』を深め広げる協働的な学習のある授業づくり
(**対話を中心**として児童間同士の**学びを深め、広げられる**授業)
- 視点3 『探究的な学び』を支える非認知能力の向上
(**協働的な学習**や**特別活動**、**学年・学級目標**と関連付けた授業による非認知能力の育成)

この研究主題達成に向けて3つの視点を意識しながら、教員は授業づくりをしています。

3つの資質・能力

学習指導要領において、「新しい時代の教育」として学校教育を通じて3つの育てたい資質・能力があります。

1主体的に学びに向かい、必要な情報を判断し、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、人生を切り拓いていくことができること。

2対話や議論を通じて多様な人々と協働していくことができること。

3試行錯誤しながら問題を発見・解決し、新たな価値を創造していくとともに、新たな問題の発見・解決につなげていくことができること。

そこで、学校教育において育成すべき資質・能力を次の3つの柱で捉えています。

一つ目は、何を理解しているか、何ができるかという、**実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」**です。

二つ目は、理解していることやできることをどう使うかという、**未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」**です。

三つ目は、どのように社会や世界と関わり、よりよい人生を送るかという、**学んだことを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」**です。

これら3つの資質・能力によって、基礎的・基本的な内容を着実に習得していきます。そして、この3つの資質・能力を各教科の言葉に置き換えたものが、通知表に書かれている項目になります。

【小学部通知表】

2学期		No.	氏名
学 習 の 記 録			
教科	評 価 の 観 点	評 価	
		よくできる	もう少し
国語	日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、日本語や言葉の文化に親しんだり理解したりしている。	知識・技能	
	順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を育み、人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができる。	思考・判断・表現	
	言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとしている。	学びに向かう力	

【中学部通知表】

令和 年度 第 学年 学期 通知表					
学習の記録				組 番 氏名	
教科	観 点	評 価	評 定		
国語	知識・技能	知識・技能			
	思考・判断・表現	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度	学びに向かう力			
				出欠の記録	
授業日数	出席停止 忌引等	出席すべき日数	欠席日数	出席日数	

これからの社会で必要となる力

三つの資質・能力のうち、特徴的なのは「**学びに向かう力・人間性等**」です。

情報化の進展で、社会は一気にグローバル化されました。環境や経済、国際関係も以前より複雑になっています。少子高齢化によって、2023年現在では人口の約3割が65歳以上の高齢者となっています。これらのことにより、今ある職業の49%が人工知能やロボットで代替可能になると言われ、内閣府からも、経済発展と社会的課題の解決を両立する「Society 5.0」という新しい社会の実現を目指す計画が発表されました。

このように、変化の激しい社会においては、自らを動機付けを高めると共に「**学び続ける力**」が求められています。また、持続可能な社会をつくるためには、他者と協働して知恵を出し合う、リーダーシップやチームワークが必要不可欠となります。さらに、他者への思いやりや優しさといった、「**人間性**」も求められます。

教育振興基本計画において、「各自が生涯にわたって自己の能力と可能性を最大限に高め、様々な人々と協調・協働しつつ、自己実現と社会貢献を図ることが必要となる。」とあるように、私たち教員は、一斉型の授業だけではなく、「協働学習」や「学び合い」を積極的に取り入れた授業づくりに取り組んでいきます。